

から適切なものを取り出して使います。こうした仕込みは英語でも日本語でも欠かせません。

英語特有の句読点の打ち方や前置詞の使い方、冠詞と定冠詞の違いなども英文法の本を読んで理解しておきましょう [1]。英語にはカンマやピリオドの他にセミコロンやコロンなど日本語にはない物もあります。定冠詞「the」は対象物をひとつに限定するときに使います。名詞の単数形と複数形も日本語にはない区別なのでつい間違えます。例えば英語ではゼロは複数形扱いです。だから駐車場に車が一台もないときは「There are no cars in the parking」と複数形を使います。文法ミスの多い子供っぽい英語を書くと信用されません。「NG」のような和製英語も避けましょう。

パソコンで書けば、スペル・チェックの他に語順のミスまで教えてくれます。これはとても良い機能なのでぜひ利用しましょう。文の先頭は大文字とか、主語が三人称単数形なら現在形の動詞にsが付くとか、内容だけ気にしていると忘れがちな点も押さえてくれます。慣れるまでは英語を母国語とする人に添削してもらうのが一番です。でもこれができない時は、少なくとも主語と動詞が一致しているか、時制が統一されているかなどを自分で調べます。すらすらと読める文章は

おおむね良い文章です。三日ぐらい時間を置いてから読み返すと適度に忘れていて、他人の視点で自分の文章を読み返せるので、もし時間があれば良い方法です。書いたものは必ず自分でも3回以上読みましょう。

《エッセイの書き方：英語のエッセイとは小論文のことです。エッセイでは主題をひとつに絞ることがコツです。主題は自分の意見の表明です。テーマについて自分の意見を決めたら、その意見を支持する材料を集めます。読む人が納得するような事実や過去の事例が材料となります。そうした材料は取捨選択してひとつずつ段落に落とし込みます。これができるれば、あとは主題を先頭にして材料となる段落を順序よく並べることでエッセイが出来上がります。アメリカの子供はこの方法を小学校で習います。このほか「主語と動詞の間をあまり空けない、既知の情報で文を始めて新しい情報で文を終わる構造を繰り返す、文の最後は大事な情報で締める」といった配慮をすると読みやすい文章になります。》

英語に慣れると「誰が何をする」という部分に注意が行くようになります。この部分が曖昧だと言いたい事が言えません。また無意識に受動形を使うと、よく「誰がするのか？」というツッコミが入ります。